

ちまちま宇宙ニュース ～はやぶさ2～

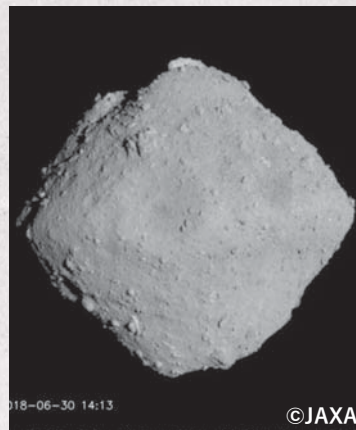
小惑星探査機「はやぶさ2」は、広報きもつき2020年6月号でも紹介した「はやぶさ」の後継機です。「はやぶさ」は小惑星「イトカワ」のサンプルを持ち帰るミッションのほかにイオンエンジンをはじめとする様々な実証実験を兼ねていました。「はやぶさ2」はその経験を生かして、より確実なミッション遂行を目指しつつ、小惑星「リュウグウ」の探査を行いました。



↑はやぶさ2の全体イメージ

©JAXA、東大など

2014年12月3日に打ち上げられてから約4年の旅を経て、2018年6月27日に「リュウグウ」にたどり着きました。「リュウグウ」には太陽系が誕生した頃の水や有機物が今も残されていると考えられており、分析すれば惑星の起源や地球の海の水の起源、生命の起源にも迫れると期待されています。そのサンプルを持ち帰ることが「はやぶさ2」の最大のミッションであり、ミッション機器として「衝突装置」が搭載されています。重さ2kgの銅を秒速約2km/sで打ち出すことで、小惑星表面に人工的なクレーターを作り、地下のサンプルを持ち帰るといったものです。これは世界初の技術で



↑小惑星「リュウグウ」

©JAXA

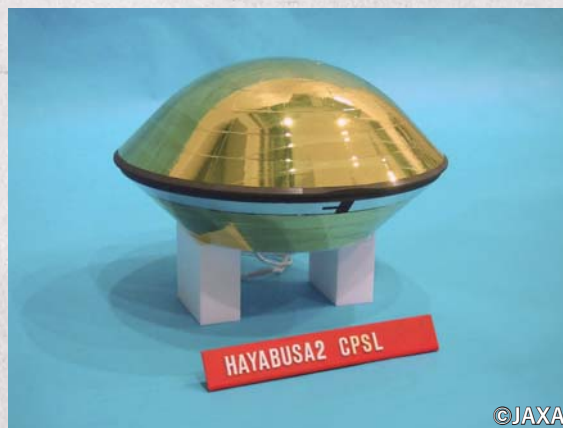
あり、後の天体探査技術の向上させることも「はやぶさ2」の目的です。人口クレーターから飛び散った周辺の土壌を採取し、2019年11月13日にリュウグウから離脱を開始しました。そして、2020年12月6日に地球へ帰還する予定です。初代はやぶさの打ち上げ地である本町としては、弟分の



↑リュウグウへ接近するはやぶさ2

©JAXA

帰還の様子を銀河アリーナで、パブリックビューイングを実施する予定です。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から人数制限を設けるため、事前申し込み形式とさせていただきます。詳細については決定次第、町ホームページ等で周知いたします。



↑サンプルを回収するカプセル

©JAXA